



中堅将校と一問一答

特500

454

山道明著

空齋

10.11.4



昭和維新を語る

定價拾錢

2



0004917-000

特500-454

中堅将校と一問一答

裕田明道・著

小冊子書林

昭和10. 10

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

特 500-454

永久保存

浦 1246

著名三氏男芳下松

法學博士 大山卯次郎・角岡知良・松下芳男共著
エチオピア ア事情 **東阿の戰雲世界を掩ふ**
日本は！全有色人はどうする
第二十版

永田鐵山論

附錄 國家總動員に就て
第二十版

明日の軍部を擔ふ人々

軍部知囊十人男
第二十版

林陸相より川島陸相へ

三井善太郎著 人に好かれるには
これだけは心得おくべし
第二十五版

目次

- 一、まへがき一堂に集るまでの経緯……………(一)
- 二、關東軍と國內政治とに就いて……………(四)
- 三、日本の展望と戦争の再起と
國家社會主義とに就いて……………(八)
- 四、現在内閣を作るとしてどんな顔觸れを望むか
皇道精神に反する者の一掃に就いて……………(三)
- 五、經濟問題に就いて……………(一〇)
- 六、地方の過渡的な一般の政治様式に就いて……………(一四)
- 七、現在より改造行爲への道に就いて……………(三〇)
- 八、むすび此の會談を閉づるまでの経緯……………(三六)



東京・神田・須田一ノ廿四 電話三二二三番
普 及 社 電話五七五〇番

定價各
十錢

小林友治著 明日の政權を擔ふ人々

内門はどうなる、維新の群雄七人男

定價十錢
送料二錢

裕田明道著 中堅將校と一問一答

昭和維新を語る

定價十錢
送料二錢

松下芳男著 陸軍大演習を

軍司令官より見る

定價十錢
送料二錢

中堅將校と一問一答

裕田明道

まへがき 一堂に集るまでの経緯

筆者は、時節柄、軍人殊に中堅、青年將校が如何なる國家改造案を抱懐してゐるかを聞くべく、
ある日暇日の早朝、當時、參謀本部付となつた某中佐を訪ねた。
久し振りに面會した彼は、「よう、しばらくだ喃」と言つてギューツと握手するので「よう」と思はずさへた。

裕田——某大將の家で會つてから四年目ですな。

某中佐——ウム、彼方にゐると忙しくて、四年がまるで夢だつたな。

裕田——ちや、今度の参謀本部付は有難いでせう。

某中佐——いや。現地がよい。日本の發展の尖端に立つてゐて常に敵に對照してゐるので、張り合ひがあるよ。日本の有難いこと、日本が世界最盛の國であることは、外國駐在武官になつて始めて體得したね。蔣介石なんか支那の大統領だけれども、俺たちは日本の駐支武官として堂々と談判が出来てね、單簡に要求事項を示して「是不是」と云ふだけだ。此も日本の強いおかげだ。

裕田——さうですな、實際、日本の姿を知るには一度外國に行かんと駄目ですな。

某中佐——さうだ。君も一度海外に行くがよいな。特に滿洲支那に行つて肚を鍊えることが大切だ。人間は學問も大切だが、肚が出来てゐなきや話にならん。

某中佐とは四年振りの會見だが、此間、滿洲事變が起つて、世界の政治經濟組織には相當大きな變革がもたらされて、躍進日本は大鷲の羽ばたきをしてゐるのである。

日曜日のためか、程なく某少佐が遊びに來た。彼は軍政家として將來を嚆目されてゐる。某中佐は瘦身精悍、某少佐は濃厚肥大である。

某中佐は、茶菓を持つて上つて來た夫人に向つて「おい。あのな。彼奴がゐると丁度親しい者ばかり四人揃ふことになるから、某大尉を呼んで呉れんか。直ぐ來るやうにな」と言つた。

裕田——某大尉が來ると、いよ／＼面白い話になるですな。彼奴は烈しいですからね。

某少佐——本當に、彼奴は烈しいね。×××××のころなどは、彼奴の力は大したものだったね。

裕田——ところで、四人も集つて、ガア／＼鳥見たいに喋つても仕方がないから、少し統一をとりませうか。

某中佐——よからう。民間は君一人だから、君が大體順序を立てて進めたらどうぢや。その代り、急所をズバ／＼突いてくれ。軍人は單簡明瞭を旨とするからな。的外れを聞いたら逆襲するぞアハ——。

裕田——承知しました。私は自由主義者や既成政黨者流とは異なりますから、國軍の統制を素すとか、軍の政治干與云々とか、云ふことは言ひませんからね。思ふ存分のことを話して下さい。やがて、電話で呼ばれた某大尉がやつて來た。某中佐は愉快々々と云つた有様で、「おい、某大尉、早く上つて來い」と大聲で呼んだ。某大尉は瘦身長軀、精悍無比である。

某少佐——君が來ると、話が面白くなると言つてゐたよ。まるで爆烈彈見たいだからな。氣の合つた同志四人の集りだ。話は期せずして、國家改造の問題を中心とする時局論となつた。

私は、ほゞ順序を立て、軍部の尖端に立てる、彼等三青年將校の主張を聞くことにした。

一、關東軍と國內改造とに就いて

裕田——關東軍と内地軍とは、何れが實力上優勢ですかね。

某中佐——なるほど。その點は確に考へられるね。軍の機密に關することでもある。關東軍と内地軍との實力上の優劣は詳細の公言は出来ないが、關東軍が優勢だと言ふことは一般に判るね。何となれば、滿洲は日本の生命線である、此の守護のために、日本は大陸政策に主力を注いでゐるからね。従つて、關東軍には秀れた人材を配置してある。板垣さんを筆頭として皆さうだね。そして關東軍は、滿洲國の治安維持、わけでも匪賊の討伐に大いに苦惱してゐる。然しおかげで成績は大分よくなつた。かくの如く關東軍は常に實戰場裡にゐるから、將兵皆自然に吐が出来ておるね。

裕田——なるほど。さうですね。その秀れたる關東軍の主力を、内地軍と交替させて直に滿洲國樹立の經驗に依つて、日本の國內改造をやらせたら、うまく行くでせうね。

某中佐——それは、願つてもない良いことだね。實際國內の改造を斷行するには、今日の内地

軍のXXXでは、殆ど望みがないからね。勿論、内地軍の中には、個々の、秀れた人物はゐるが、關東軍のやうに、揃つてゐないからね。そこに行くと、關東軍は、全體として、滿洲事變から滿洲國の建設へ、と言ふ工合に苦闘して來たゞけに國家建設の最近の偉大なる經驗者として重大性を持つてゐる。だから、此の地位たるや、實に重大なものがある。然し、世界の情勢上から觀て、關東軍の現在の實力は、名實共に關東軍に必要だよ。だから、關東軍と内地軍とを全部交替させることは勿論出来ないし、又關東軍の有爲の人材を悉く内地軍の部署に配置して國內のXXを斷行するとなれば、結局關東軍の現在の實力が大いに減殺されることになる。従つて、外國の干涉壓迫を蒙る虞あることは充分であるから、日本の大陸政策に重大なる支障を來すことになる。およそ、國內の改造をするには、國內が一時XXに陥ることは必然のことだからね。そのとき、外敵の脅威を充分に反撃し得るだけの實力を必要とするよ。だから、國內改造の機に乗じて、日本の大陸政策を脅威せんとする外敵を充分に反撃し得るだけの實力が、關東軍に絶対に必要だね。又海軍は、國內改造のときは、その本務たる部署に付て、海より來る外敵の脅威を粉碎せねばならんね。だから、結局、日本の國內改造は、XXXと民間との合作に依ることになるね。勿論、關東軍に於ける秀れたる人物が定期異動などに依つて、内地軍の地位に着くことはあるが、

全體として、内地軍にも民間にも、有能の人材が不足してゐるね。だから、結局人材を養成することが、軍部に於いても、民間に於いても、大切なことだね。いくら日本の国内改造が必要であるからと言つても、現在行つてゐる、又行はねばならないところの、日本の大陸政策を犠牲にすることは出来ないからね。日本の大陸政策を犠牲にすることは、即ち日本の生命線を犠牲にすることになるからね。

裕田——なるほどね。それでは、結局、まだ、日本の国内改造は時期尚早と言ふことになりま
すかね。

某中佐——いや。秀れた人材が不足であるから、国内の改造は時期尚早であると言ふ結論にはならないと考へる。既に、日本は国内の改造をなすべき時期に當面してゐる。国内改造の客觀的
状態は出来てゐる。唯、彼等が關東軍の首脳部のやうに秀れた人材ばかりでないと言ふこと、又
それかと言つて、今の日本の大陸政策を犠牲にしてまで、關東軍の首脳部と内地軍の首脳部との
總入替をすることは出来ないと言ふこと、を意味するに過ぎないね。然し、内地軍と言つても、
青年將校の中には、將來必ず大をなすところの秀れた人材がいくらかもゐるね。例へば、某少佐
にしても、某大尉にしても、なか／＼有爲の人材である。俺は、此の兩君を軍人として、又親友と

して、深く信頼してゐるね。

某中佐の烈々たる國家改造論に、吾々は熱心に聞き入つてゐた。今し、某中佐の口から、某少
佐、某大尉の名がほとぼしつたので、兩君はハツと我に歸つたが如く、一寸顔を赧らめた。

某中佐——然し、内地軍の青年將校の中には、有爲の人材が多くゐるが、内地軍の×××には
秀れた人物が少くない、と言ふことは、或る意味に於いては、裕田君が言つたやうに、日本の國
内改造は時期尚早であると云ふ論張の根據ともなるね。即ち、青年將校が、年數を経て、首脳部
の地位に着くやうになるまでは、国内の改造行爲をなすことを延期すると言ふことになればね。
然し、客觀的状态は、さつきも言つた通り、既に出来てゐる。だから、青年將校が首脳部となる
の日まで、国内の改造行爲を延期すると云ふことは出来ないし、又延期すべきではない。何とな
れば、国内の改造を一日でも延期することは、それだけ、躍進日本の發展を阻害することになり、
又特權階級、財閥、既成政黨などの××なる行爲を看過することになるから、甚だよろしくない。
だから、出来ることなら、一日も早く国内の改造を斷行せねばならぬ。それには、青年將校を中
心指導力とする軍部が、改造運動に出来るだけ早く、而かも確定的に、立ち上がることが必要で
ある。×××の如き老人に、国内改造の如き大事業を任すべきではない。吾々青年將校自らが

起すべきであると信ずるね。

裕田——なるほど、そうですね。然し、その×××の青年將校に關東軍の青年將校のやうな現地的な實戰的な肚が出来てゐないとすれば、又關東軍の青年將校のやうな建國の經驗がないとすれば、國內の改造行爲は、×××の青年將校を中心指導力としては、斷行し得ないか、又斷行しても、成功的な結果を収め得ないことになりはせぬかと考へますが、どうですか。

某中佐——その點は、たしかに考へ得られるね。だから、關東軍と内地軍とは、上下將兵に至るまで、常に人事の交流を計ることが必要だね。然し亦、青年將校は、首腦部の老人達とは異つて、青年的な、進歩的な、氣魄があるし、又、既に×××××、血盟團事件、五、一五事件などに依つて、國內改造の具體的な方法や目的が、自然に判つてゐるし、かうして、改造運動の波にもまれて、自ら改造行爲の經驗者となる事が出来るね。此の點は、内地軍の青年將校ばかりでなく、民間の有秀なる青年に就いても、亦同じことだね。

二、日本の展望と戦争の再起と國家社會主義とに就いて

裕田——滿洲事變を契機として、日本の大陸政策は、新しく積極的に急速に上向擴大されたと

言ふことが言へますね。此に就いては、列強としても當然一言なかるべからずでせうな。して見ると、日本の展望とか、戦争の再起とか、と言ふことが特に考へられるでせうね。

某中佐——さうだね。それは最も重要な問題の一つとして、熟考を要するね。とにかく、リットン卿見たいな奴が居てグズ／＼ぬかすからね。然し、俺たちは、日本の生命線を守るためには、列國の反對なんか最初から覺悟の前だよ。とにかく、日本は膨脹期にあるんだからね。日本は之から大いに發展せねばならんし、又發展する國家だよ。だから、日本の展望は如何と言つたら、さうだな、一言にすれば、當然起るであらうと豫想される一切の壓迫を撃滅して、皇道精神に依る世界の統一を計る、と言ふことが言へると思ふね。日本の大陸政策は、此の日本の高遠なる世界經略の第一歩だね。單に世界經略と言ふことなら、征服すればよいので、そのことなら、昔、シーザーやアレキサンダー大王が企圖し又ナポレオンだつて企圖したことであるが、日本の世界經略は、單なる征服ではないね。又單なる征服であつてはならんよ。皇道精神に依る世界經略と言へば、世界の全人類をして、皇道に歸依せしむること、信仰せしむること、心服せしむることだね。そして萬世一系の天皇を世界の統治主體として仰ぐんだね。又戦争は再び起るね。再起のみならず、世界統一迄には三起も四起も、いやもつと戦争をやることだよ。吾々は戦争を通

じて、その戦争に勝つことに依つて、世界を統一し、平等にし、平和を確立し、日本の世界経略を實現せねばならぬ。だから戦争を否定して今直に平和だと言ふことは偽裝平和だね。吾々は自由主義者の云ふやうな机上の空論は嫌ひだ。又社会主義者は帝國主義戦争反対だなんて言つてゐるが、此も空論だ。戦争せねばならぬ情勢に立ち至つてゐるのに戦争を否定するなんてことはない。勿論社会主義者は吾々と同じがつて、皇道精神を否定する奴だから結論がちがふのは當然だがね。俺は自由主義も社会主義も否定する。皇道精神を死守するよ。皇道精神こそが日本を生かす原素である。

裕田——貴方は皇道精神を主張なさるが、それは大變よいと思ひます。然し青年將校の中には最近流行の國家社会主義に對して大分動いてゐるやうに思はれますが、どうですか。

其中佐——いや。青年將校は國家社会主義には動いとらん。唯軍部が滿洲事變以來、社會の指導的立場に立つてゐるのと、國家主義運動の擡頭に伴つて、國家社会主義運動が起つて來てゐると、此等のために、世間が一般に、青年將校が國家社会主義的に動いてゐる様に考へてゐるんだね。此も從來社会主義運動があつたため、さう見えるだけだね。俺の知る限りに於いては、軍部は國家社会主義には反對してゐるよ。天皇を大元帥として仰ぐ軍隊は唯皇道精神に依つてのみ

動くさ。唯資本家とか重臣とか既成政黨とかの存在に對しては、皇道精神とそれとが相反撥する以上その排撃に賛成する。社会主義も財閥や重臣や既成政黨の排撃を主張するけれども、皇道精神とは全く異つた觀念である。社会主義は萬人平等を主張するが、皇道精神は萬世一系の天皇を統治の主體として仰ぐ。國家社会主義はイタリーやドイツからの輸入品だね。吾々はかゝるものを擊滅する必要を認めるね。國家社会主義なんて、天皇の名をかたり、國家の名をかたり、裏面では社会主義をやらうとしてゐるものだから、俺は眞ツ向うから反對だ。吾々は日本獨特の皇道精神に依つて、政治經濟社會の立直しを斷行すべき決意に燃えてゐる。他國からの輸入思想は、昔の日本には必要であつたらうが、既に世界の指導者となつてゐる現在の日本には、自ら獨特の發展道がある。又あらねばならぬと確信するね。外國へ日本の思想が輸出され傳播されると言ふのなら話は分るが、外國の思想が日本に輸入されることは、正に自己冒瀆だと考へる。

其中佐はスツカリ昂奮して、話を進めて行つた。彼は熱すれば熱するほど、益々辯舌爽快となる。「どうだ、此で承知するか。逆襲するかツ」と、彼は、確信に満ちた意見を述べると、必ず最後に此の文句をつける癖がある。

三、現在内閣を作るとしてどんな顔觸れを望むか

裕田——それでは、現在、吾々改造派の意見を比較的良く容れて忠實に實行してくれるところの内閣を作ると言ふことも必要ですね。

某少佐——そりや必要だ、俺たちは何も敢て事を好むものではないから、若し××の惨事を見ずして、調子よく、改造を目的とする内閣が出来てくれれば、之こそ願つてもない良いことだ。だから、俺たちは、出来るだけ、改造派の意見を實行してくれ得る内閣を、穩當に組織し得るやうに努力することも又確に必要だね。

裕田——いや。之は有難い。實は僕は、穩當に、改造派に味方する内閣を作るやうに努力するなんて言つたら、或はあなた方から猛烈な反對を受けて、「そんなことは出来ない、結局強力に依るより他に途がない、裕田の意見は空論だ」と言つて撃破されはせぬかと懸念して居たが、やつぱり同志は、同じ思ひをしてゐるものですね。

某中佐——そりや、君。流血なくして改造が出来たら、こんなに良い事はないさ。俺たちの武力は最後の場面に來なくちや使はんよ。

裕田——ところで、今、吾々改造派の意見を或る程度まで容れてくれる内閣を組織するとしたら、一體どんな顔觸れでせうかね。あなた方に大體の腹案はないですか。又かゝる内閣を作るとしても、現在の政界の状況を良く考慮に入れて、元老重臣方面のことなど特に良く考へて見て、内閣組織の本命の降下し得る可能性のある人を、首相候補として擧げねばならんですね。

某少佐——さうだね。荒木さんを首相にしてよいと考へる。元老重臣方面から言つても可能性はあると思ふね。五・一五事件の際などは、西園寺公は特に荒木さんの意見も聞かれたほどだからね。

某中佐——荒木さんなら良いと思ふ。昨日も荒木さんと會つていろ／＼話をしたが、大變良く判る人だね。

裕田——荒木さんは確に良いでせうな。然し、今、荒木首相の實現性がありますかね。それが一寸疑問だな。とにかく荒木さん個人の人物は良いとしても、貫祿があるかどうか、世間が一寸此の點で充分とは見えますまいね。だから、此の點から言つたら、近衛文麿、南次郎、宇垣一成、古いところで齋藤實などが、一段と光つてゐるでせうな。

某少佐——近衛さんは最近グ／＼と貫祿がついて來たね。なるほど、元老重臣方面から言つ

たら、近衛内閣の實現性は相當強いね。

裕田——さうです。近衛さんは西園寺公とは特に良いらしいですな。然し元老重臣方面一般の傾向としては「近衛は今しばらく取つておいて、も少し経つてから、非常時日本の大首相として出したら」と云ふ考らしいですな。ところで、南、宇垣、齋藤と云ふところはどうです。

某少佐——南さんは中庸を得た人だね。荒木さんほどの氣骨はないかも知れんが、包容性のある大人物だね。宇垣さんは軍部の強硬論がおさまらぬ限り、駄目だと思ふね。元老重臣は皆自由主義者だから、宇垣内閣の成立を希望するだらうがね。

裕田——然し、宇垣さんも大人物ではありませんね。従来自由主義的な軟派として目されてゐるので、軍部の硬派から毛嫌ひされてゐる。私も宇垣内閣の成立は一寸疑はしい。世間では宇垣内閣の成立説が喧傳されてゐるし、又宇垣の勢力は各方面に相當強く根を張つてゐるが、宇垣に大命降下した場合、果して軍部の硬派が承知するかね。例へば陸軍は林銑十郎、阿部信行、渡邊錠太郎の如きがゐるから、場合に依つては陸相も出すだらうが、海相が問題だ。とにかく、軍事普及部の某大佐が「海軍は宇垣内閣に必ずしも反對に非ず」なんて聲明したら、とたんに誠首だからね。この調子では宇垣内閣は海相難で不成立となりはせんかと考へる。海軍中でも特に艦隊派

が強硬だね。南さんの首相はどうだらう。良くはないかね。關東軍の氣骨ある者共を統制して行く位だから、相當なものだ。南内閣だとうだね。改造派の意見は通らんかね。齋藤説は、此は若し以上の様な内閣が出来ない場合に補充的な意味に於て可能性があるね。

某少佐——そりや、首相は必ずしも荒木さんでなくとも、吾々の意見を容れてくれさへすれば南でも宇垣でも難だつてよい。然し宇垣さんが果して改造派の意見を容れるかね。やつぱり俺たちは荒木内閣が良いと考へる。唯、裕田君が云ふやうに賞祿の點が、なるほど、一寸心配だね。

裕田——それでは、貴方たちの良ささうな人物で、荒木さんよりも賞祿のあると思はれる平沼騏一郎氏はどうです。

某少佐——平沼さんも良いが、あの人は元老重臣方面に餘り受けが良くないね。だから、やつぱり、平沼さんよりも荒木さんの方が實現性が多いと考へるね。平沼さんは荒木内閣でも出来たら、樞密院議長にでも親任されるだらうね。近衛さんもたしかに立派な首相候補だ。最近の傾向からすると軍部方面でも、彼に期待するものは相當多くなつてゐるね。

裕田——それでは、荒木内閣よりも、近衛内閣を作つて、改造派の意見を漸次に實行して貰つ

たらどうです。

某少佐——俺は、何も荒木内閣を固執するわけではない。誰でもよい、俺たちの意見さへ通ればね。亦某中佐が云はれたやうに、平沼樞相は適任だらうね。

裕田——然し軍部の注文通りにはなか／＼行かんからな。世間の話では、齋藤實氏を樞相に、松平恒雄氏を内府にとの希望もあり、又平沼を樞相に、齋藤を内府にとの説もあるね。然し、私は齋藤さんの動きをじつと見てゐると西園寺公近つた後に元老たらんとするの準備工作もあるやうに見えるね。ところで、あなたの方考へる内府の適任者はないですかね。

某中佐——今、君の云つた平沼、齋藤の内府も、まあ、良いね。然し、一寸變つた所で安達謙殿氏はどうかね。一寸陰險だと言ふ感じもするが、然し安達さんはあれでなか／＼いゝところがあるぞ。先日は滿洲から歸つたばかりの俺に話を聞きたいからと言つて、わざ／＼自邸に呼んで下さつたがね。八重殿を作つたりなんかして、最近の安達さんは陰險味が大分取り去られて明朗だよ。俺を自邸に呼んで話を聞かれるなんて、全く謙讓と雅量のある近代的の大人物だね。

某少佐——安達さんなら良いよ。あの人は最近良く俺たちの方針を理解して下さるね。あの老人で、あれだけ判りの良い人も妙なないよ。

某大尉——さあ、首相、樞相、内府が一應決つたね。他の大臣の顔觸れはどうかね。

裕田——君、一つ意中の大臣候補を貰つてくれ。

某大尉——いや。俺の意中の大臣候補は、本物の「改造内閣」の場合にだけ通用するんだから「改造派に同情する位の内閣」には通用せんよ。

裕田——君は全く、戰闘的だな。某少佐、どんな顔觸れですか。

某少佐——さうだね。大體のところはだね。君は荒木さんには貫祿が不足ぢやないかと言つたが、まあ、首相を荒木貞夫として、陸相が眞崎甚三郎、海相が加藤寛治、内相が小磯國昭、外相が廣田弘毅、蔵相が松岡洋右と言ふ顔觸れではどうかね。其他の大臣は適宜任命するさ。

裕田——なるほどね。その陣容なら、軍部の改造派の意見も相當通るだらうね。然し私は現在の情勢から言つて一寸考へさせられるね。

某少佐——さうかね。なるほど、荒木に貫祿が不足すると云ふことは君が言つたね。然し、眞崎さんは軍の統制をうまくやるだらう。あの人は一寸取り付き難い點があるが、然し度々接してゐると親分肌の大人物たる所が良く分る。加藤さんはワシントン條約のときも硬派として最後まで頑張つたし、海軍硬派の總帥として申し分ないね。小磯さんは線の太い軍人政治家だね。滿洲

建國に際しては一切を切り廻した人だけに、國內改造のための内相としては相當に働ける人だね。廣田の外相もいゝだらう。松岡も財政通だし、藏相になれると考へるね。

裕田——いや。その内相の小磯はどうかね。勿論小磯は滿洲建國の立役者ではあるし、改造時代の内相としては一應考へられ得るが、然し軍人の内相はどう考へて見ても一寸無理ぢやないかね。却つて後藤文夫や吉田茂と云ふ邊りをうまく使つた方が良くはないかね。又藏相の松岡は、私は初耳だね。藏相の地位は内閣では最も重要だが、松岡にそれだけの力が今認められるかね。松岡は元々外交官で代議士で、滿鐵に入り、國際聯盟の全權委員をやりはしたが、たとへ財政通だとしても、今藏相だとは一寸無理だね。若し藏相の適任者が無ければ、首相兼攝でも仕方がないと考へるね。松岡の藏相と云ふことは世間が一寸認め得ないよ。貢祿の點があまりにも不足はないかね。

某中佐——なるほど。批評はあるね。然し、裕田君も眞崎甚三郎や加藤寛治や廣田弘毅などに付いては、適任だと認めるらしいな。實際、廣田さんは、民間の有爲の人材だね。近代稀に見る外務大臣の逸足だね。とにかく、滿洲事變のまゝに、軍事行動を起すやうに、軍部に進言し決意を生ぜしめたのは、廣田さんその人だからね。その頃廣田さんは駐露大使をしてゐられたね。近

頃の外交官の中には、廣田さんほどの氣魄のある肚の出来てゐる人物は全くゐないね。

裕田——某少佐が言はれたやうに、陸相を眞崎さんとすればその他の陸軍の首脳部の顔觸れはどうなりますかね。

某少佐——教育總監は柳川平助、參謀次長は建川美次と云ふところだらうな。

裕田——關東軍はどうします。

某中佐——關東軍は板垣さんに任せておけばよいと考へる。板垣さんはなか／＼の傑物だ。大物だ。將來必ず大をなす人だね。とにかく、板垣さんを中心に、滿洲の一切が集結されてゐるからね。それも、板垣さんにそれだけの力量がなくては出来ないことだからね。斌式毅、熙洽、などは皆、板垣さんがわざ／＼草盧から呼び出して、滿洲國の政府に据え、建國運動に参加させたのだからね。だから、滿洲では、板垣さんは「板垣大先生」と云はれて子供でも知つてゐるね。滿洲國及び關東軍には、なくてはならぬ人物だね。人望を一身に集めてゐるね。

裕田——海軍の首脳部はどうなるです。

某少佐——さうだな。海軍の硬派と云つたら結局艦隊派だからね。然し、海相を加藤寛治として、海軍次官には小林省三郎は適任と考へるね。それに、軍令部次長を高橋三吉とし、聯合艦隊

司令長官としては、やつぱり末次信正がいゝだらう。陸軍とは一寸異なるが、此の顔觸れで、大體良いと思ふね。

四、皇道精神に反する者の一掃に就いて

裕田——昭和維新は、明治維新が王政復古を目的としたのと同様に、皇政維新ですね。

某少佐——さうだね。長くも、今上陛下におかせられては、昭和維新の大事業を遂行遊ばされ居、明治天皇と御同様に、極めて御英明にわたらせられる。このことは、曾て田中光顯翁も、感激しつゝ、謹話なされたことである。又、吾々が直接、職務上の関係で、お知り申し上げてゐる、秩父宮殿下におかせられても、極めて御聰明でゐらせられる。日本がこの躍進時代に於いて、非常時の波瀾を乗り切るときに於いて、かくも、御英明なる聖上陛下と御聰明なる御直宮殿下とを載くことは、全く幸福である。従つて、吾々は、此の時に於いて皇政一致を實現すべく、昭和維新を主張するわけである。

裕田——昭和維新の前衛隊なるものは、血盟團にせよ、又五・一五事件の陸海軍青年將校及び民間の行動隊にせよ、皆、元老重臣プロック——特權階級、財閥、既成政黨などの撃滅を期する

ことを以つて、國家改造の第一着手としてゐるですね。

某少佐——さうだね。要するに、元老重臣プロック——特權階級は徳川幕府と同じ立場にあるからね。特權階級に依つて作られてゐる元老重臣プロックは、現在の日本の政權、存在場所の縮圖のやうなものだからね。この元老重臣プロックが、徳川幕府の執權どころ、に相當するんだね。此の元老重臣プロックが、不當なる中間介在の代表的なものとして、即ち特權階級、財閥、既成政黨よりなる支配的聯盟の盟主として、日本の政權を攪断し、躍進日本の發展を阻害する。この元老重臣プロックこそが、現状維持派の總代表たり、盟主たるものである。退嬰的にして、自分たちが何時までも、國家の元老重臣として、日本の政權を攪断するの地位に居りたいとのみ考へて居るのである。そのために、彼らは、財閥のため、又既成政黨のためならば、いくら國民を××にしても良いと云ふ腹である。そこで、國家權力を彼等のために利用し、濫用して、何ら憚ばかるところがないのである。實際、怪しからん。

裕田——全くですね。そこで。

某少佐——そこで、國民は、實際は、さつきも言つた通り、幸福であり、又幸福であるべきではあるが、此の國民の幸福と云ふものは、天皇と一般國民との間に介在するところの、不當なる

存在たる、元老重臣ブロッケ——特權階級及び財閥、既成政黨の、全く自己本位的な、×國民的な、日本の政權の連斷的利用に依つて、即ち皇道精神に反する卑劣なる憎むべき行爲に依つて被はれてゐるのである。又財閥と既成政黨とは、元老重臣ブロッケ——特權階級を徳川幕府とすれば、此等は所謂佐幕派であると云へるね。財閥が財政經濟を司つて不當に私利私慾を得ており、天下の權力を元老重臣ブロッケ——特權階級が不當に左右しており、既成政黨が此の財閥や元老重臣ブロッケの不當なる行爲を尤もらしく合理化して宣傳してゐるんだね。財閥が經濟部で、特權階級が政治部で、既成政黨が宣傳部で、各々その分擔を決めて、個人的××××のために、又彼らの現在の支配的地位を維持するために、國家を毒し、國民生活を××せしめてゐるんだね。全く怪しからんよ。

某少佐も、このところ、いささか昂奮氣味である。濃厚肥大なる彼の眞白き面上に、やや昂奮したる赤き血潮の色がありありと見られた。

某少佐の話が、不當なる中間存在の痛撃を強調して、一寸黙すると、今まで唯もくもくとして聞いてゐた、某大尉も、熱血漢だけに、じつとしてゐられないらしい。橋本左内型の彼は、是亦昂奮の神經を動かして口を切り開いた。

某大尉——全くだ。天皇と國民との間に、不當にも介在してゐて、國家權力を行使する特權階級、不當なる擄取を敢てして經濟的利益を獨占し以つて國民の貧苦を増大させる財閥、ツウくしくも又それらの寄生蟲として代辯して喋くり廻る既成政黨、彼等は全部本當に第一線から退却して貰はんといかん。それでなきや、日本の天氣はいつまで経つても晴天にはならん。

緒田——なるほどな。それぢや、皇道精神に反するところの社會主義者はどうなるんだい。

某大尉——勿論、共產主義者、社會主義者、無政府主義者、國家社會主義者など、國體に反することを、したり言つたりする者は皆一掃するんだ。又愛國ツラをして、國家を毒する似而非愛國運動者なども片付ける必要がある。特權階級や財閥や既成政黨と同様に、此奴らも又皇道精神に反する奴等だからな。とにかく、皇道精神に反して、日本の國體を素す奴は、何誰を問はず、全部一掃せんといかん。俺にその處分權があれば、責任を以てかゝる奴等を一掃して見せるよ。

緒田——さうだな。俺も君の主張に賛成だね。ところで、君の考では、一掃する奴は、全國で、大よそ幾人位あるんか。

某中佐——さうだね。詳しく統計を立てて調べてはゐないから、所謂不當なる中間介在者として一括して、幾人あるとは明言出来ないが、明治維新の時はすいぶん犠牲者を出したものだね。と

にかく、國家改造と云ふ非常時のときであるから、彼等は全部退却して貰はんといかん。熱烈な若い連中は極端な事を主張するが、それ程までせんでもよいだらう。

裕田——つまり、大掃除の必要があるんだね。

某大尉——極端に多人数を一掃する必要はないね。何も善良なる國民を犠牲にする必要はないんだからね。唯國家改造のために必要だと認めただけをやつつければそれでよいんだからね。

五、經濟問題に就いて

裕田——それで、その奴等の財産を全部國庫に頂戴すれば、國防費は充分それから支出出来るし、更に一般國民の負擔する租税なんか、大いに削減することが出来るね。それでは、國防は完璧を期せるし、國民生活は樂になるし、こんなよいことはないね。一つ某大尉に早速やつて貰ふんだな。

某大尉——あゝ。いいとも。時が来れば、ウンとやるよ。一つ裕田君 斷行する方は俺に任せと置いて、君はそれらの財産が大概いくらになるか、國防と財政とをどう調和するかと實にことをよく考へといてくれんか。

裕田——よろしいとも。ところで、軍部から色々パンフレットや其他の宣傳物が出されてゐるが、それを見ると、なるほど専門家だけに、國防の重大性に付ては、「微に入り細に亙り」と云ふ工合に書いてあるが、國防の基礎たる財政問題、農村問題、都市問題に付いてはあまりにも原則の陳述たるに止り、最少し詳しく書いてほしいと思う點があるね。例へば軍部は農村問題を重要視するのに比して、都市問題を輕視してゐる様に見えるね。此は實際、農村は純朴にして吾人よして如何なる搾取にも黙々として苦しい生活をしており、従つて最近他動的に農村問題が重視され、又軍人が多く農村出身であることからして、特に此の純朴な農民の味方として軍部が農村生活の向上に一段の力を注いでゐるのであり、都市では特權階級、財閥などがゐて、色々の施設をなし、自ら都市生活の向上に或る意味に於て努力してゐるためでもあらうがね。とにかく要するに、一言にすれば、全體としての、日本の經濟組織に付ては、之をどう言ふ工合に改造したら良いかね、又改造すべきかね。

其中佐——なるほどね。經濟問題の詳しいことは、君らの専門的な經驗に俟つ外はないね。俺たちは軍人だからな。だから、大ざつぱに改造の案地を作るだけさ。そこにもつてきて、君らの建設的な頭腦と腕とが必要となるわけだね。だから、經濟組織などに付いては、詳しい事は云へ

ないが、然し、原則として、経済組織は新しくあるべし、とか、新しくあるべきである、とか言ふことは、明白に言へるし、又この原則だけは、いくら軍人だと言つても、明白に方針がなければならぬからぬ。それでなくちや、大體改造が初められんよ。

裕田——そうですか。それで、その原則をどうやるか、聞かせてほしいですか。

其中佐——つまり、國家改造の指導精神は皇道精神である。日本建國の最初から皇道精神だけは變つてゐないのだから、之を變へる必要はない。又之を變へてはならない。皇道精神は日本特有の傳統的精華だからね。皇道精神とは、國民が萬世一系の天皇を統治の主體として仰賛すると云ふ、この精神だね。つまり、政治的には、この皇道精神に依つて、國家改造の行爲に進み、此の精神を經濟組織に織り込んで、而かも、その經濟組織は國體日本の基礎として充分なものであるやうに體系付けることが必要だね。此の點から考へて見て、俺は經濟組織は原則として國家統制にすべきであると考へるな。

裕田——國家統制と言へば、大分、ロシアの經濟組織や、ドイツの經濟組織の社會化や、イタリアの重要産業の國家統制にも似て來ますね。

其中佐——なるほど。國家統制と云へば、その點では、ロシア、ドイツ、イタリアの經濟組織

に似ることになるね。然し、統制經濟で進む方がよいと言ふことは、今の時代の流れだから、世界各國がその各々の特殊な事情に相當したいろ／＼な統制經濟の組織を取るんだね。日本だつて統制の必要が確かにあるね。その統制經濟を皇道精神に依つてやるのである。外國を眞似る必要はなからう。ロシアには共産主義に依る統制經濟が組織され、ドイツにはナチスの國民社會主義による統制經濟が組織され、イタリアにはファシズムに依る統制經濟が組織され、日本には此等とは全然趣を異にして三千年來の傳統的な皇道精神に依つて統制經濟が組織されるべきである。だから形式上組織上から見ると同じ國家統制の經濟組織であつても、實質上國民の觀念上に於ては大いなる差異があることになるよ。レーニンの共産主義、ヒトラーの國民社會主義、ムツソリーニのファシズムなどが出來てから僅々數年足らずだが皇道精神は既に三千年の歴史を關みするからね。勿論俺がいくら皇道精神を主張するからと言つても他國の長所を眞向うから攻撃することはせんよ。他國の長所は長所として之を攝取するのに聊かも吝でない。又日本の短所は短所として之を捨てるに聊かも吝ではない。かうして長短相補ふことが結局皇道精神を發揚することになるんだからね。

裕田——皇道精神による國家統制經濟と、共産主義に依る國家統制經濟との觀念上の相異を一言にして見ると、どうなりますか。

某中佐——さうだね。皇道精神に依る場合は、萬物は凡て國民の總宗家たる皇室の御所有にかゝるのが原則にして其の使用權を國民に付與し給ふたものである、と云ふやうな觀念になるね。此の觀念はたしかに日本の傳統的觀念だね。共產主義に依る場合には、萬物は凡て社會の共有に屬するを原則として其の使用權が個人に付與されてゐるのである、と云ふ様な觀念になるね。

裕田——なるほどね。本當に、日本精神と云ふものは、西洋の思想とは異なるですね。例へば、個人主義思想にしても、日本の個人主義は所謂全體主義から出發した個人主義にして「全體の中の個人である」と云ふ觀念が基礎となつてゐますね。然るに、西洋の個人主義は所謂個人主義から出發して全體主義となり「個人が相集つて全體を作る」と言ふ觀念が基礎となつてゐますね。だから、日本と西洋とは全く正反對の思想傾向にありますね。ロシア、ドイツ、イタリーなどの經濟組織と日本に作らんとする統制經濟との差異も、又此の邊に原因するでせうな。

某中佐——全くだ。私有財産制度に就いて見ても、西洋では、最初から原則として、個人の財産とか個人の所有とか云ふが如き觀念が基礎となつてゐるね。然るに、日本の私有財産制度に於いては、西洋の此の考とは正反對の考だね。吾々の私有する財産は本當は吾々日本國民の總宗家たる天皇の御所有にかかるといふものであつて、それを天皇が吾々に一時私有せしめてゐられるもので

ある、天皇が還納せよと仰せ付けられるれば、吾々は、いつなんどきでも之を天皇に奉還せねばならぬ、と云ふ觀念が基礎となつてゐるね。即ち吾々の私有財産は「天皇の委託物」であると云ふやうな觀念が國民の頭を強く支配してゐるね。

裕田——なるほど。全く同感ですな。某中佐はなか／＼造詣が深い。たしかに、私有財産制度に於て、西洋と日本との間には、今あなたが云はれたやうな差異がありますね。日本に於ける私有財産制度の總論者は、その點を等閑に附して居ますね。吾々は此の點を考慮に入れて、皇道精神に依る國家統制經濟を獨特のものとして作り上げる必要がありますね。

某中佐——全くさうだ。ところでだね。さつき、裕田君が言つた通り、軍部から出されるパンフレットやその他の出版物の論張の重點が、國防と農村問題とにおかれてゐるやうに見えることは全く事實だね。然し、だからと云つて、軍部が國防と農村問題とのみを重要視して、他を輕視すると言ふことは云へないね。吾々は、各産業部門に付いて、例へば化學工業は斯く／＼の組織にするとか、これ／＼の産業は然るべく組織するとか、と言ふやうな具體的なことは詳しくは判らぬ。然し、いろ／＼と考へて見て、凡ての經濟組織を擧げて、皇道精神の發揚に資するやうに組織すべきであると云ふこと、そのためには、皇道精神を指導精神として、國家統制經濟で行くべきで

あると云ふことは信じて疑はぬ。此のことが新日本の発展を計る所以だね。

六、地方の過渡的な一般の政治様式に就いて

裕田——全くですな。財政問題、農村問題、都市問題などを一朝一夕に話すことは困難ですな。然し日本の発展のために此らの重要問題を如何なる政治様式で處理すべきかに付いては、あなた方に相當の御意見があるでせうね。

某中佐——そりやある。勿論今の政府に、此をかうやれ、あれをどうやれ、と言つても出来はせんが、さつき言つたやうな、改造派の意見を容れ得る政府が出来たら、是非やつてもらいたいことがある。それは在郷軍人を中心とする政治組織の樹立だね。

裕田——なるほどね。然しそれでは全く軍人政治になるが、こんな組織では永くはやれんではう。

某中佐——さうだね。まあ、此は新日本の基礎を作る時の政治組織だね。日本の大躍進の下準備は今のところ、軍部でなくては出来はせんよ。だから一種の過渡的政治形態だね。それに、在郷軍人だと、比較的公平な政治が出来ると考へる。郷軍には金持、貧乏人、商人、農民、俸給者

など、あらゆる方面の人々を網羅してゐるから、所謂全國民の總意としての政治が郷軍に依つて公平に出来ると考へる。唯所謂軍人政治と云ふ點で、新時代に不適當だと云はれるだらうが、過渡的現象としては已むを得ないし、新日本の基礎が固まるに伴つて、軍人政治はやがて解消して有能の士の翼賛による萬民が天皇をいたゞく政治、搾取なき政治、君民一如の天皇親政になつて行くのである。

裕田——さうすると、郷軍政治の形式をどうやりますか。

話はいよく佳境に入り、某中佐は熱心に話を進めた。某少佐、某大尉は熱心に聞き入つた。筆者は、某中佐の深遠なる考に全く魅せられて質問を續けた。

某中佐——先づ現在の市町村長、市町村會などを解任、解散するね。そして、例へば東京市の市長は、東京市の在郷軍人會長を以て之に任ずるさ。それから東京市會の代りには、東京在郷軍人會を以つてするさ。かうしたら、相當公平なる、國民本位の政治が出来ると信ずるね。

裕田——それぢや、都市問題、農村問題、財政問題なども、比較的良く解決されるやうになりますね。

某中佐——さうだとも。今の市會、市長などの政治はやつぱり財閥本位、既成政黨本位、特權

階級本位であるが、郷軍政治は全くそれとは趣を一變するね。税金だつてさうだらう。今は「上
に軽く、下に重し」だらう。それが正しく平均されて来るから、一般國民の生活がよくなるよ。

裕田——郷軍政治だと相當思ひ切つたことがやれますね。

某中佐——さうだとも。財閥が不必要な生活をすれば、それを取り上げるさ。俺なんか今、金
時計を持つてゐるが、さうなれば、政府に取り上げられるよ。いや、俺の方から自發的に提出す
るがね。又金持で脱税してゐる奴なんか、その全財産を沒收してしまふことになるさ。

某少佐——實際、郷軍政治で、ウンとやればいいな。郷軍政治を實現し得るだけの内閣を作り
たいね。

裕田——さつき、あなたの云はれた荒木内閣では、どうですか、出來さうにないですか。

某少佐——いや。荒木内閣なら出來るよ。

某中佐——荒木さんなら、吾々が是非郷軍政治をやつて下さい、と主張すれば斷行なさると考
へるね。唯元老や重臣が、さつき裕田君が云つたやうに、荒木さんに、今、大命降下を承知する
か、どうか、問題は結局そこにあると考へるね。

裕田——若し、元老や重臣が荒木さんを首相として奏請することに躊躇すれば、その方面では

荒木さんよりもつと確實性のある近衛文麿公はどうです。さつき、某中佐の話では、近衛さんの
最近の傾向は、軍部としても好感が持てるよと云ふ風に云はれましたが、それでは、可能性のない
荒木さんよりも、可能性のある近衛さんを推挙して、その下で、吾々改造派の意見をウンとやつ
て貰へないですかね。

某中佐——近衛公で、吾々の意見が實行出來れば、それに越したことはない。然し人物と云ふ點
から見れば、荒木さんは信念上、又境遇上、斷乎として物事を實行し、決して元老重臣ブロック
と妥協して國民を裏切ると云ふやうな事はないが、近衛さんでは、その點がどうかと考へる。吾
々の心配は結局、近衛公のそこにあるのだね。

裕田——然し、西園寺公もなかく、わけの判つた人で、先日も側近者に向つて「俺は早晚明治
維新のときに於ける勝海舟と同じやうな役目をやることにならう」と云はれたさうですな。

某中尉——そんな話を俺も聞いた。それほど、物の道理の判つた人を、昭和維新の前衛隊の
攻撃目標とすることも、どうかと一應考へられないことはないね。

某少佐——そりや、さうだね。西園寺公は、明治維新からの傑物であつて、たしかに聰明
だね。その點は、元老重臣ブロックの特權階級、財閥、既成政黨など、一連の不當なる中間存

在の總大將だけの責務があつて、天晴れだと考へる。頑固なのは牧野内府だね。結局、西園寺公が、勝海舟であるとすれば、牧野内府は、悪い意味に於ける伊井直弼大老だね。伊井大老には、開港論者であると云ふ點で、進歩的な長所があつたが、牧野内府には、少しも長所が見い出せない。頑固なのが一の反動的長所とも云へるがね。西園寺公ならば、勝海舟が、江戸市中を兵火から救つた、犠牲を出不さずして平和裡に江戸城を西郷隆盛の手に明け渡した位の肚藝は出来る考へるね。だから、その點では、西園寺公の偉いところは勿論認めるべきだね。

七、現在より改造行爲への道に就いて

裕田——さつき、云つたやうに、吾々改造派の意見を比較的良く實行してくれる内閣が出来て公平なる郷軍政治をやつてくれると良いが、然し、最悪の場合を豫想して、若し特權階級、財閥、既成政黨、自由主義者から社會主義者など、皇道精神に反する陣營の者が齎しく、國家を毒し、躍進日本の發展道を阻害し、天日(てんじつ)を蔽ひ、國民生活の苦惱は益々加重し、改造内閣はおろか改造派の意見を容れて實行してくれ得る内閣さへも、成立の餘地がない、と云ふことになれば、吾々改造派はどうするかね。

某大尉——そのときは最早容赦ならん。斷乎として皇道精神に反する一切の不當存在を××的に處分する外ないね。血盟團事件や五・一五事件なども結局××的處分の方法に依らずして國家の改造行爲は出来ないと思つたからこそ起つた事件だ。平和裡に國家改造が行はれて、皇道精神が益々發揚されるのならば、何も好んで××なんかしはせぬ。武人の軍刀は伊達や醉狂でブラ下げてゐるんぢやない。

某少佐——さうだ。なるほどだね。實際吾々の意見をよく容れて實行してくれ得るやうな内閣がどうしても出来ないと思ふ場合には「どんな方法」をとると云つふ事を豫め詳細に決める事は變轉常なき社會(へんてんじょうなきしやかい)上出来ないが、然しその場合に多少の流血の事件が起るのは、國家改造と云ふ大事業の産みの苦しみとしては、已むを得ないことだね。例へば明治維新に於いても、櫻田門外の事變、坂下門の事變、安政の大獄、蛤御門の戦、更に近藤勇を大將とする新撰組の活動と志士の闘争、坂本龍馬や中岡慎太郎の暗殺、池田屋事件などの如き、又薩長土肥の連合に依る倒幕運動の武力的發展の如き、いろ／＼の流血事件や内亂的行爲が起つてゐる。現在、かうした騒動が少し大規模に起ると、大權の發動に依つて戒嚴令(かいげんれい)の宣告となるのは必定だね。そこで、この機を逸せずして、吾々の立案にかゝる改造内閣を樹立するさ。そして、地方各府縣には、改造知

事を新任して、市町村にはさつき某中佐が云はれたやうな郷軍政治を組織して一舉に改造行爲に進んだね。だから、最悪の場合を豫想して、その準備をしておく事は改造派にとつては大切な事だね。

某大尉——實際、國家改造に適當する客觀的状態は既に出来てゐるね。國民は確かに改造を望んでゐるね。例へば、明治維新において、將に維新の大業が成されんとする前夜の物騒なる時代においては、愛國の志士が、たつた一人で、江戸市中の町奉行所を日本刀で荒し廻つたり、又各屯所を騒がせて歩くと、奉行所では「それッ！ 重大事變だッ」と言つて、大變あはてゝ大警戒をした。殊に、その犯人がうまく逃げるか、又は若し捕つても、口を緘して何事も自白しないと背後にはどんな重大な組織があるか判らんで全國的に警戒した。現在の客觀的状態が之に良く似てゐる。従つて現在には此の場合には、戒嚴令の布告を爲す位の状態が發展するかも知れぬ。其程に、日本の客觀的状態は、國內改造の機運に漲つてゐるね。状態はとにかく、切迫してゐると云ふことは事實だね。

むすび 此の會談を閉づるまでの経緯

話はグン／＼進んで、國家改造の問題で、花が咲いた。某中佐の廣くもない應接間は全く梁山泊となつてしまつた。四人とも昂奮してゐる。話は續いてゐる。少しも飽かない。ダレ氣味がない。氣の合つた同志だ。知つてゐる仲間だ。何の遠慮が要らう。

國家改造の話が一通りすんで、思ひ出したやうに茶菓をとつて、高笑しつつ四方八山の話に興じてゐると、夫人が食事を勧めに來られた。

一同は、某中佐及び夫人の心からなる款待を受けて、酒肴に興を覺ゆる。酒を汲み交はしつつ話を續けて行つた。

裕田——警察官の中には、在郷軍人も澤山居るし、又最近兵士出身の採用率が大變多いやうですが、此の警察官は、國家改造の行爲には動員出来ませんか。

某大尉——警察官は結局は治安を維持する立場だ。軍人とは立場が全く異なるね。だから、改造行爲に付いて、警察官を當てにすることは出来ないね。又當てにすべきではないね。警察官は結局、そのとき／＼の政府の言ふことを忠實に聞いて實行すればそれで良いのだ。警察官はそれが本分なのだ。他にいろいろの事をやつて貰ふ必要はあるまい。

裕田——ところで、最近、陸軍が社會の實際上の指導者であつて、單に軍部の動向などと云

「軍部」と云ふ言葉は、主として、陸軍を意味するが、その陸軍の上層部には、本當に物になる人物はどれ位居るかね。

某大尉——居ないね。とにかく、將官級には、大した人物はゐないと言ふことは、軍人の誰もが言つてゐるね。秀れた人物は大概佐官級で、職首にならされるからね。少し氣骨があれば直ぐ職首だよ。結局、こんなわけだから頼みになるのは佐官級以下だね。少し秀れてゐると、天保錢組でも直ぐ待命とか豫備とかになされるからね。今の世の中は氣骨があると出世出来んよ。

精田——どこの社會でも同じことだね。少し氣骨があると、直ぐ「彼奴は生意氣だ」とか「反幹部派だ」とか云はれて、左遷されたり、冷遇の極みを受けるからね。要するに、今日の國家の要路には人物が居ないんだな。

某大尉——全くだ。そこに改造の必要があるんだな。

精田——橋本欣五郎さんは傑物のやうですな。

某中佐——さうだとも。彼は偉い。あの級では第一の大物だね。それに、ロシア通でね。將來大をなすね。

精田——佐々木到一さんはどうです。

某中佐——佐々木も偉いぞ。やつぱり滿洲向きの大人物だ。

彼は現在滿洲國軍政部最高顧問である。

精田——石原莞爾さんはどうです。

某中佐——あれも傑物だ。板垣、橋本に劣らぬ大人物だ。一寸突撃的で、角があつて人の感情を害する點もあるが、その中、良くなるよ。たしかに、陸軍の偉才だね。

精田——長れ多い話ですが、秩父宮殿下は大變御聰明にわたらせられ、傑物らしいですね。

某中佐——殿下は御聰明だ。社會の狀勢を良く御承知である。そして御人物が大きい。將來、開院宮殿下のやうに、元帥として、大いに日本のために活動なされることと拜察するね。

精田——中野正剛さんは、あなた方にはどう見えますか。

某少佐——俺は中野さんには何となく好感が持てるね。夜叉王のやうなところがよいよ。少し乗り過ぎるやうだ。尤も實行出来る地位についたら實行もやるだらうが、然し一寸線が細いな。あの中野さんを使ひこなせるだけの大人物が今ゐないね。中野さんは使ひ方によつては、最も有爲の才能を發揮する人物だね。

精田——永井柳太郎さんはどう見えますか。

某中佐——永井さんはね。先般會つたときに「貴方はマネキンだからね」と言つたら笑つてゐたがね。とうとう拓務大臣になつたね。

某少佐——民間では、十河信二などは、なか／＼秀れてゐる方だらう。彼には、いろ／＼良くない噂もあるが、然し悪い事をする奴は大體いい腕を持つてゐる。だから、十河などはいい地位につけて軍部で嚴重に監視したら、なか／＼良く仕事をやれる人物だと考へるね。

裕田——風見章さんはどうですか。

某少佐——あれはやつぱり、中野一派として中野の様な考を持つてゐるのだらうね。それ以上に特にこれと云つて注意もしないね。國民同盟は結局安達さんや中野さんがゐるから生色があるんだね。

裕田——吉田茂さんはどうですか。

某少佐——あれは新官僚中では、一番の大物だらうね。とにかく、協調會にゐた／＼めか人物が出来てゐるね。

裕田——三井、三菱などの財閥に對してはどう考へますか。

某中佐——三井にしても、三菱にしても、住友などにしても、最早その經濟組織は一個人とし

ての三井、岩崎、住友ではどうにもならないね。一の大きな社會だからね。それで例へば三井の當主が大變社會のことを良く理解してゐて、社會政策など大いにやらうとしても、その下にゐる理事とか評議員とかいろ／＼のものがあつて、當主の意見通りには行かんね。然し當主などと云ふ者は割合に理解があるね。先般俺が參謀本部付として東京に來たときは、三井の當主が直ぐ俺を自邸に呼んで、一族郎黨を大廣間に呼んで、俺に講演を頼むからね、又當主がボヤ／＼してゐても支配人などがしつかりして居て、さうするのも知れんがね。そこで俺は先日、個人としての當主や財閥の中の各個人には、それはなか／＼良い人がゐるが、然しその三井とか三菱とかの經濟組織自體が既に今日の社會では大いに改められる必要があるんだ、と言ふ事を力説してきたよ。

某大尉——どうでしたか。財閥の連中は少しは譯けが判りましたかね。

某中佐——なるほどと言つて聞いてゐたよ。又彼らは、滿洲支那の經濟状態を大分知りたがつてゐた。結局彼地の様子が良く判らるので投資の點などが消極的になるらしいね。要するに、個人としての財産家よりも、一種の經濟組織としての財閥が今日悪いんだね。之を破壊打倒せんといかんね。

裕田——なるほどね。個人としては、さう悪人ではないでせうね。吾々が問題にするのも結局一

の經濟組織たる財閥ですからね。要するに、國家の改造をなすには、肚の出來た人物が一人でも多くゐることが必要ですな。財閥の中にだつて、勝海舟や小栗上野介などのやうな傑物がゐるとは、昭和維新にとつても必要なことですね。

某中佐——さうだよ。人間は肚が出來たらんと話にならん。又實際、今の支配階級の中にも個人的には傑物がゐるね。唯、全體としての今の支配階級が現代に通用しないのだね。話はなか／＼盡きない。然し、某中佐は、講演の約束があるので、吾々は有意義なる一日を通して、午後、中佐夫妻の心からなる歡待に感謝しつつ辭去した。

愛讀者へ急告!

■松下芳男氏の二名著『永田鐵山論』と『明日の軍部を擔ふ人々軍部智識十人男』は、いづれも小社月刊の最新刊で、發賣とともにたちまち賣切れ、増刷また増刷に忙殺されてゐます。もし各肆賣店にて賣切れの際は直接本社へ御申込下さい。

■『永田鐵山論』は、故永田中將の武人としての一生を氏の名筆をもつて残りなく描き出し、なほ附録に同中將の講演『國家總動員に就て』を添へたもので、『明日の軍部を擔ふ人々』とともに、併せ読んで、もつて今日の軍部の動向の全貌に通ずることが出来るものであります。いやしくも時局に關心ある者の業績の書だと、あらゆる方面より大好評を受けて居ります。

■愛讀者諸君に新刊の通知、連絡を計る爲め愛讀者カードを作製します。どうぞ本書の讀者は、もれなく、この書物の題名、讀後感、お求めの場所、御住所御姓名、いかなる種類の書物の出版物を御希望かをハガキで御知らせ下さい、お願いいたします。

(中堅將校と)
一問一答 定價拾錢
送料二錢

昭和十年十月卅一日印刷製本
昭和十年十月五日發行

著者 裕田明道
發行人 高瀬直繁
東京市神田區須田町一ノ二四

印刷所 東神印刷株式會社
東京市神田區須田町一ノ二四

印刷人 星野金治郎
東京市神田區須田町一ノ二四

發行所 小冊子書林
東京市神田區須田町一ノ二四

發賣所 普及社
東京市神田區須田町一ノ二四
電話東京六五七五〇番
電話神田(25)三三三三番

久原 滿著

樂々と我兒を試験にパスさせる
勉強法これだけは心得をくべし

定價十錢
送料二錢

三井善太郎著

男女禮法と社交術
これだけは心得おくべし

定價十錢
送料二錢

三井善太郎著

親のため我兒のために
讀ませる小學生孝經

定價十錢
送料二錢

東京漫畫漫文
クラブ同人著

絶對成功虎の巻

定價十錢
送料二錢

黑白社同人編

妻から良人へ
良人から妻へ 杭議と反駁

定價十錢
送料二錢

醫學士

生田 一者

醫者の來までの手當法
これだけは心得おくべし

定價十錢
送料二錢

辯護士

城西隱士著

日常に必要な法律知識
これだけは心得おくべし

定價十錢
送料二錢

三井善太郎著

挨拶の仕方と話の種
これだけは心得おくべし

定價十錢
送料二錢

安田龍太郎著

風雲日本の景氣
準備は！覺悟は！對策は！

定價十錢
送料二錢

立春大吉

人情訓
處世訓

川柳道話

定價十錢
送料二錢

特500

454 胃腸を強くす

頭の栄養剤



はれやめか

旅行に絶対必要
支那研究權威
後藤朝太郎先生

代理出版の御希望に應ず
御希望の方は本社
へ御問合せ下さい

普及社讀者カース	
この書物をお求めの場 所をお知らせ下さい。	題名「 」
この書物の購後感をお知らせ下さい。	
出版してからの購後感をお知らせ下さい。	
新刊の御通知をいたします。購後所購後感をお知らせ下さい。	
購後所	
購後名	

！見菊の一本日

所名新都帝

形人菊の園川摩多

- ・行奉句上月十は籤抽・
- ・昼遊券場入はに者籤當・
- ・を券場入額中はに方のれ洩籤當・

愛讀

昭和
九子

目



讀
賣
新
聞
社

！見菊の一本日

所名新都帝

形人菊の園川摩多

- 行舉旬上月十は籤抽 •
- 呈進券場入はに者籤當 •
- を券場入額半はに方のれ渡籤當 •

愛讀

昭和
九子

目



讀
賣
新
聞
社